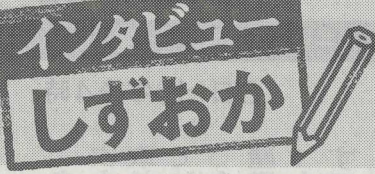


# 市民主導で着実な取り組みを

## 富士山世界文化遺産への課題は

わたなべ とよひろ  
都留文科大教授 **渡辺 豊博さん** (62)



富士山の世界遺産への取り組み  
1994年、静岡、山梨両県の自然保護団体などが世界遺産への登録をめざして246万人の署名を集めたが、国の世界自然遺産候補地検討会で落選した。両県は2005年、文化遺産の登録をめざす合同会議を発足。来年6月の世界遺産委員会で登録の可否が決まる。

世界文化遺産登録への審査が続く富士山。行政主導で、市民レベルでの盛り上がり欠けるとの見方もある。三島市に暮らし、かつての署名運動を引っ張り、現在は「富士山学」を専門とする渡辺豊博・都留文科大学教授に課題を聞いた。

——富士山の現状をどう見ていますか

現在、富士山を訪れる年間の観光客数は5合目には300万人、山頂への登山客は30万人以上いて、世界最大の山岳観光地といえます。夏季には、1日に1万人以上が登山する世界に類を見ない「無秩序な山」になっています。

——オーバーユース(過剰な利用)が主要因となり、富士山には多くの問題が山積しています。ごみの放置や

尿の垂れ流し、不法投棄の増大や地下水の減少と汚染、放置された森林の拡大、貴重植物の盗伐などです。永久凍土の溶解、植生の変化といった問題もあります。「山麓開発の進行」が課題です。

——世界文化遺産登録への審査が進んでいますか

富士山は本当に、世界文化遺産として登録が可能な「前提条件」や国際的な「環境基準」が整備されている山なのでしょう。

地元では、登録後の経済効果を期待しています。美しい富士山にどのようなセーフティネットを構築して次世代に引き継いでいくのか。総合的、長期



三島の水を守る市民活動が始まり。「富士山は湧水を供給する母なる山」

秋田県出身、三島市育ち。東京農工大学を卒業後、1973年に県庁に入り、空港対策課などを担当。08年から都留文科大学教授。著書に「富士山学への招待」(春風社)などがある。

的、具体的な政策立案や課題解決への仕組みづくりは不十分といえます。——どうしたらいいでしょう

世界遺産登録の目的は、「開発の抑止」であり、現在の利害者に多くの制約が新たに課せられることに合意した「覚悟」の証しでもあります。いま、行政主導

の登録運動が進行中ですが、50年後、100年後の富士山をどのように守り、伝えていくのかを考えることが重要です。

そのためには、市民、NPO、行政、企業、専門家など、さまざまな分野から多くの関係者が集まり、多様な視点からの議論と検討の場が求められています。

——来年6月に世界遺産委員会の結論が出ます。1年後の登録を拙速にめざすのではなく、10年先を見据えた着実な取り組みが必要不可欠です。例えば、管理の一元化を担う「富士山庁」の創設や富士山圏域の包括的な管理規範である「富士山立法」の制定、「入山料」の徴収など。持続可能なセーフティネットとなる「包括的管理基本計画」の策定や専門性を持つ「総合調整役NPO」の設立も考えられ、国民の英知を束ねた、市民主導の仕組みづくりが求められています。

——課題が山積ですね。これから、富士山の世界文化遺産登録を通して、日本人の環境に対する「共生の知恵と行動」が試されています。環境と観光が共生した新たな環境再生と地域再生のあり方を模索しながら、秀麗なる富士山を次世代に確実に伝えていけるように、多様な問題を国民間で共有・認識し、着実に解決していくことが「先決」です。(大久保泰)